

第2章 流域及び河川の自然環境

2-1 流域の自然環境

豊川上流域は、スギやヒノキ等の人工林を主体とする常緑針葉樹が大部分を占めているが、高位標高部には、シイ・カシ・ブナなどの落葉広葉樹林も一部残されているとともに、鳳来寺山のホソバシャクナゲや、^{つげ}黄柳野地区のツゲの自生地^に代表されるように各所で優れた自然植生がみられる。また、ニホンザル・イノシシ・キツネ・タヌキ・アナグマ等のほ乳類、ブッポウソウ・ヤマセミ・シジュウカラやレッドデータブック記載種のクマタカ等の鳥類、魚類では清冽な豊川のシンボルとしてアマゴ、イワナやアユが多く生息しているほか、国指定の天然記念物であるネコギギが生息し、ハコネサンショウウオ・モリアオガエル等の両生類や国蝶のオオムラサキをはじめギフチョウ・ムカシトンボなど学術上重要な種が生息している。



豊川（寒狭川）鳳来町

三河山間地を出て豊橋平野を流下する中流域の山間部には、アカマツ、クロマツと常緑広葉樹が分布している。特に、本宮山^{ほんくうさん}はシダ類を始めとする植物の宝庫ともなっている。また、県の自然環境保全地域に指定されている吉祥山^{きちじょうさん}には直径1mを超えるシイの巨木林が小規模ではあるが形成されている。

下流域は、吉田大橋周辺の市街化が進んだ都市地域で、その上流と河口付近は農業地域となっている。支川神田川の上流部の石巻山^{いしまきさん}には、石灰岩地帯植物群落などの貴重な自然植生が見られる。



豊川（豊川市）



豊川河道内樹木（豊橋市）

2-2 河川の自然環境

豊川はその源流から河口に至るまで全国有数の清冽な水質を保ち、山間渓谷部を急勾配で下り、その後豊橋平野で蛇行を繰り返しながら瀬や淵を形成し、緩やかに流れ河道は安定し、良好な水質や豊かな河道内の樹木群により多様な生態系を育んでいる。

上流部は、複雑な地質や地形による自然崖とそこに分布する自然植生とが相まって良好な自然環境を形成しており、魚類等の餌となる昆虫類も豊富で、溪流に棲むアマゴ等のほか、国指定の天然記念物であるネコギギが生息している。

中流部では河岸段丘が発達し、江島橋下流・東名高速道路付近・三上橋付近などで砂州が発達して瀬や淵を形成し、アユ等の産卵場も点在している。また、両岸には高水敷が広がり、水辺にはツルヨシ、ヤナギ等の植生が、高水敷にはエノキ・ムクノキ・マダケ等の高木を中心とした樹林が点在して、豊川の清冽な広い水面により河川特有の水と緑が織りなす良好な自然環境を創出している。

下流部の吉田大橋付近までは、中流部と同様に豊かな自然環境が残されており、ヨシ・ヤナギ等の植生が水際まで繁茂し、豊橋市等の都市化が著しい地域にあって、下流域に残された貴重な自然環境を提供している。

以下にその概要を示す。

(1) ぎよかいらい 魚介類

上流部には山間清流に棲むアマゴが主体でイワナなども生息するほか、夜行性で浮き石や岩の空隙などに棲み、伊勢湾及び三河湾に注ぐ河川にのみ生息する、日本の固有種で国の天然記念物であるネコギギが生息している。中流部は、アユ

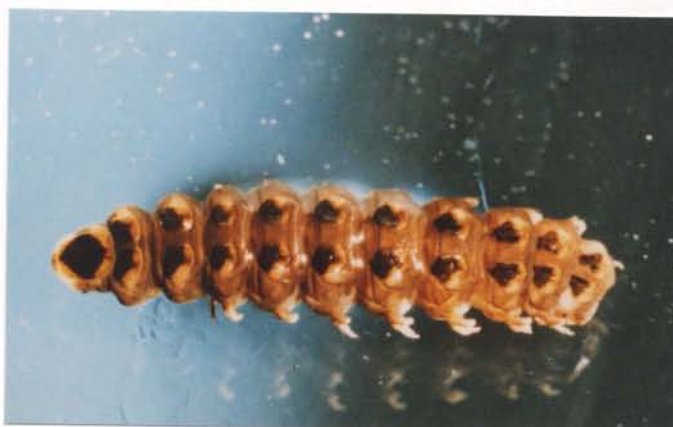


ネコギギ

やウグイのほか、コイ・フナ等のコイ科魚類が中心に見られ、それらの産卵場が分布している。また、汽水・海水魚のマハゼ、スズキ等が新城市の牟呂松原頭首工下流まで遡上している。下流部では、汽水・海水魚が多くギンブナ等の淡水魚も生息している。河川水辺の国勢調査（平成6年度実施）ではアマゴ、オイカワ、アユ、ウグイなど54種が確認されており、サツキマス、カマキリ、アカザ、オヤニラミなどの特定種が生息している。エビ・カニ・貝類についてはテナガエビ、カワニナなど11種が確認されている。

(2) 底生動物

感潮区間を除く上・中流部全般において、ヒラタカゲロウ類を始めとしたカゲロウ類、トビケラ類やカワゲラ類などきれいな河川に生息する種が優先している。また河口部では汽水域に生息するヤマトシジミが多く生息している。河川水



ゲンジボタル

辺の国勢調査（平成6年度実施）では、河口から新城橋までの間で確認された底生動物は、231種、特定種はゲンジボタルが確認されている。

(3) 植 物

豊川の植生は上流部には、ツルヨシ群落やサツキツツジ群落、イワタバコ群落、ネコヤナギ群落、カワラハンノキ群落など河川特有の自然植生が見られる。中流部から下流部にかけても、水際部にはツルヨシ群落やヤナギ群落、高水敷には昆虫類の食樹として、また鳥類の^{ねぐら}・繁殖場所として重要なエノキやムクノキ、昔から人間の生活に密着し治水や食用に利用されてきたマダケなどの森林植生の占める割合が高く、冠水域草本群落から高水敷の高木

林まで多様な植生が成立している。特に、マダケ、エノキ等の河道内樹木群は豊川の特徴となっている。吉田大橋の下流から河口までは水際にヨシ群落が生息している。河川水辺の国勢調査では、河口から新城橋までの間で確認された植物はエノキ、ムクノキ、マダケ、メダケ、ヨシ、ヤナギなど、



ミゾコウジュ

平成5年度調査で431種、平成9年度の調査では681種が確認され、特定種はミゾコウジュなど9種が確認されている。

(4) 鳥類

上流部には、山間溪流にすむヤマセミ、レッドデータブック記載種（レッドリスト絶滅危惧種ⅠB類）のクマタカ等が生息している。中・下流部は水際のツルヨシ・ヤナギ等の植生、高水敷のエノキ・ムクノキの混成林等、多様な環



コアシサシ

境が残されているため、多くの鳥類の採餌・営巣場として利用され、またそれらの小鳥やネズミ類を狙うオオタカ等の狩り場にもなっている。河川水辺の国勢調査では、河口から新城橋までの間で、オオタカ、ハヤブサ、コアシサシ等の特定種をはじめ平成4年度調査で77種、内特定種は5種、平成8年度調査では103種、内特定種12種が確認されている。

(5) 両生類、は虫類、ほ乳類

上流部には山地溪流に棲むハコネサンショウウオや、モリアオガエルなどの両生類、山間地に生息するニホンザル、イノシシなどのほ乳類も生息している。中流部から下流部には自然のままに残されている草地や



アカネズミ

樹林地が多くあり都市近郊までキツネ、タヌキ等も確認されている。河川水辺の国勢調査（平成3～4年度及び平成7年度実施）では河口から新城橋までの間で、両生類9種、は虫類9種、ほ乳類10種が確認され、特定種のダルマガエルなども確認されている。

(6) 陸上昆虫類

上流部にはエノキなどを食樹とする国蝶のオオムラサキをはじめ、ギフチョウや山間溪流に棲むムカシトンボなども広域に生息している。中流から下流部にかけても豊川の特徴である水際や高水敷の豊かな草地や



タガメ

樹林地に生息する昆虫や、砂地や清澄な水質等を好む昆虫など、数多くの種類が生息している。河川水辺の国勢調査（平成6年度実施）では河口から新城橋までの間で、1,218種、特定種はタガメ、ヒメタイコウチ、ゲンジボタルなど8種が確認されている。

※ 特定種とは、調査実施の参考とするために以下の文献に記載のあるものを整理したものです

魚介類	<ul style="list-style-type: none"> ・国、都道府県、市町村指定の天然記念物 ・「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（以下「種の保存法」という）の国内希少野生動植物種及び緊急指定種 ・「魚類版レッドリスト」掲載種 ・「日本の絶滅のおそれのある野生生物－レッドデータブック」（環境庁）（以下RDB（レッドデータブック）という）掲載種 ・自然環境保全調査（第1回）（以下「第1回緑の国勢調査」という）の「すぐれた自然」調査対象種 ・自然環境保全基礎調査（第2回）（以下「第2回緑の国勢調査」という）の「日本の重要な淡水魚」指定種
底生動物	<ul style="list-style-type: none"> ・国、都道府県、市町村指定の天然記念物 ・種の保存法の国内希少野生動植物種及び緊急指定種 ・RDB（レッドデータブック）掲載種 ・第1回緑の国勢調査の「すぐれた自然」調査対象種 ・第2回緑の国勢調査の「日本の重要な昆虫類」指定昆虫
植 物	<ul style="list-style-type: none"> ・国、都道府県、市町村指定の天然記念物 ・種の保存法の国内希少野生動植物種及び緊急指定種 ・「植物版レッドリスト」掲載種 ・「我が国における保護上重要な植物種の現状」（我が国における保護上重要な植物種及び群落関する研究会）（植物版レッドデータブック）掲載種 ・自然公園法の指定植物（特別地域）
鳥 類	<ul style="list-style-type: none"> ・国、都道府県、市町村指定の天然記念物 ・種の保存法の国内希少野生動植物種及び緊急指定種 ・「鳥類版レッドリスト」掲載種 ・RDB（レッドデータブック）掲載種 ・第1回緑の国勢調査の「すぐれた自然」調査対象種 ・第2回緑の国勢調査における稀少種
小動物 （両生類・ は虫類 ・ほ乳類）	<ul style="list-style-type: none"> ・国、都道府県、市町村指定の天然記念物 ・種の保存法の国内希少野生動植物種及び緊急指定種 ・「両生類・爬虫類レッドリスト」掲載種 ・RDB（レッドデータブック）掲載種 ・第1回緑の国勢調査の「すぐれた自然」調査対象種 ・第2回緑の国勢調査の「日本の重要な両生類・は虫類」指定種
陸上昆虫	<ul style="list-style-type: none"> ・国、都道府県、市町村指定の天然記念物 ・種の保存法の国内希少野生動植物種及び緊急指定種 ・RDB（レッドデータブック）掲載種 ・第1回緑の国勢調査の「すぐれた自然」調査対象種 ・第2回緑の国勢調査の「日本の重要な昆虫類」指定昆虫

2-3 特徴的な河川景観や文化財等

豊川本川上流の通称「寒狭川」の水源をなす段戸山一帯は、愛知高原国定公園、段戸高原県立自然公園に指定されており、シイ、カシ、ブナなど落葉広葉樹林の景観や、寒狭川の溪流景観など様々な自然景観に恵まれている。

宇連川流域は天竜奥三河国定公園に指定され、中央構造線や設楽火山群により創出された複雑な地質や地形と豊かな植生が相まって、鳳来寺山・乳岩山をはじめとする山岳景観に恵まれている。河床に板を敷いたように見えるため板敷き川とも呼ばれる溪流をもつ鳳来峡は、滝・甌穴・淵と兩岸の山々の景観がすばらしく、四季を通じて観光客が多い。また、乳岩峡などの溪谷美を求めて多くのハイカーも訪れる。付近には愛知県民の森が整備されキャンプ・宿泊施設なども整っている。

寒狭川下流の花の木ダム（長篠発電所堰堤）は、自然の地形を生かしながら人工的に創り出された滝が、侵食された花こう閃緑岩と流れ落ちる水による造形美をつくり、夏の涼、秋のもみじ狩りなどに多くの人々が訪れる。また、江戸時代から続く昔ながらの伝統漁法が残されている鮎滝周辺は、寒狭川の代表的な溪流景観を呈している。

そのほか上流域には、乳岩や馬の背岩・阿寺の七滝のように優れた景観と地質学術上貴重なものも多い。

中流域は、本宮山及び桜淵の各県立公園に指定されており、山姿秀麗な本宮山や桜淵など優れた景観がみられる。特に桜淵は桜と淵をもつ県下屈指の景勝地で、四季折々の景観が満喫でき、利用者も多い。

また、その下流からは兩岸に高水敷が広がり、豊川の特徴である水際や高水敷の豊かな草地や樹林が点在し、遠方にそびえる本宮山の山並みが豊川の清澄な広い水面により河川特有の水と緑が織りなす良好な自然景観を創出している。

下流域は、支川の上流部が石巻山^{いしまきさん ため}多米県立自然公園に指定され、特異な円錐形で独立峰の石巻山には、国の天然記念物である石灰岩地帯植物群落や石灰岩の大岩塊が見られる。また吉田城付近は桜と緑の豊橋公園となっており、河畔を覆う桜並木や、歴史的景観と調和した護岸等の整備がなされ、良好な河川景観を創出している。また豊川は吉田大橋付近まで高水敷が広がり、河

道内の樹木やヨシなどが水際まで繁茂するとともに、清冽な水質が保たれ、豊橋市等の都市化が著しい地域にあって、下流域に残された貴重な自然環境と河川景観を提供している。



鳳来峡・板敷川（宇連川、鳳来町）



花の木ダム（長篠発電所堰堤、新城市）



鮎滝（新城市）
滝を飛ぶ鮎を竿の先につけた網ですくい
捕らえる伝統漁法が現在も行われている。



桜淵公園（新城市）



三上橋上流（豊川市）



吉田城（豊橋市）

豊川流域内の国の名勝天然記念物等としては、鳳来寺山、乳岩及び乳岩峽、阿寺の七滝、馬の背岩などがある。以下に特筆すべき文化財・遺跡・天然記念物などのうち、いくつかをとりあげ、その概要を示す。

(1) 鳳来寺山

天竜奥三河国定公園の南玄関にある鳳来寺山は国の名勝天然記念物に指定され、最高峰は瑠璃山(695m)とも呼ばれている。流紋岩、松脂岩、凝灰岩などから構成され、約2,000万年前の激しい火山活動によって噴き出し、その後の長い間風化侵食作用によって今日のような複雑で険しい地形ができあがったものである。山の斜面は急で、奇岩がそびえ、数10mの絶壁をなしている所が多い。鳳来寺山には、真言宗五智教団の本山で大宝3年(703)利修仙人により開山され、後に源頼朝の再興と伝わる薬師信仰と、山岳修験道の霊山として信仰を集めた鳳来寺がある。山頂近くの奥の院からは、目前に豊橋平野から渥美半島までの眺望を楽しむことができ、表参道から1425段の石段を登ると両側は老杉がうっそうと生い茂り、昼なお暗く5月から7月にかけては霊鳥**ぶっぼうそう**（コノハズク）の声を聞くことができる。



鳳来寺山（鳳来町）

(2) 乳岩^{ちいわ}及び乳岩峡

宇連川支流の乳岩川に沿う峡谷を乳岩峡と呼び、その奥に乳岩山(標高670m)がある。乳岩山は岩山で、その岩塊には大小いくつかの洞窟があり、そのうち最も大きいものを乳岩洞窟という。この一帯を総称して乳岩と呼んでおり国の名勝天然記念物に指定されている。乳岩洞窟には、流紋岩質凝灰岩中に含まれる石灰分のできた小さな鍾乳石を見ることができる。



乳岩及び乳岩峡 (鳳来町)

(3) 阿寺^{あでら}の七滝

鳳来町の巢山高原から流れる水が、礫岩の断層崖を落下して、全長64mにわたる7段の階段状の曲線美を描いて、深い滝つぼに落ちる姿は幽玄そのものである。上から2番目と5番目の滝つぼは大きな^{おうけつ}甌穴を持ち、礫岩にかかる



阿寺の七滝 (鳳来町)

滝のものとしては学術上貴重なものとされ、国の名勝天然記念物に指定されている。また、ここの礫岩を子抱岩ともいい、これを祀ると子どもが授かるという伝説がある。

2-4 自然公園等の指定状況

(1) 自然公園及び自然環境保全地域

豊川上流の通称「寒狭川」周辺は、優れた渓谷美と様々な自然景観に恵まれ、河川沿いには東海自然歩道も整備されるとともに「^{あいちこうげん}愛知高原国定公園」に指定されている。宇連川流域はその大部分が「^{てんりゅうおくみかわ}天竜奥三河国定公園」に指定され、宇連川及びその支川には、馬の背岩を始めとした天然記念物等が各所で優れた自然環境を提供している。また豊川（寒狭川）とその支川である当貝津川の水源地域一帯は「^{だんどこうげん}段戸高原県立自然公園」に、豊川（寒狭川）の中流部と巴川の一部が「^{ほんぐうさん}本宮山県立自然公園」に指定されている。

中流部で随所に渓谷美をつくる豊川とその周辺森林地帯は「^{さくらぶち}桜淵県立自然公園」に、また下流域では支川の源流域が「^{いしまきさんため}石巻山多米県立自然公園」に指定されているとともに、「^{きちじょうさん}吉祥山」が県の自然環境保全地域に指定されるなど、豊川及びその支川に広範囲に渡って自然公園等の指定がなされている。

(2) 鳥獣保護区

鳥獣保護区には8カ所が指定されており、宇連川周辺の自然を利用した「愛知県民の森」内のハイキングコースやキャンプ場等が特別保護地区に設定されている。

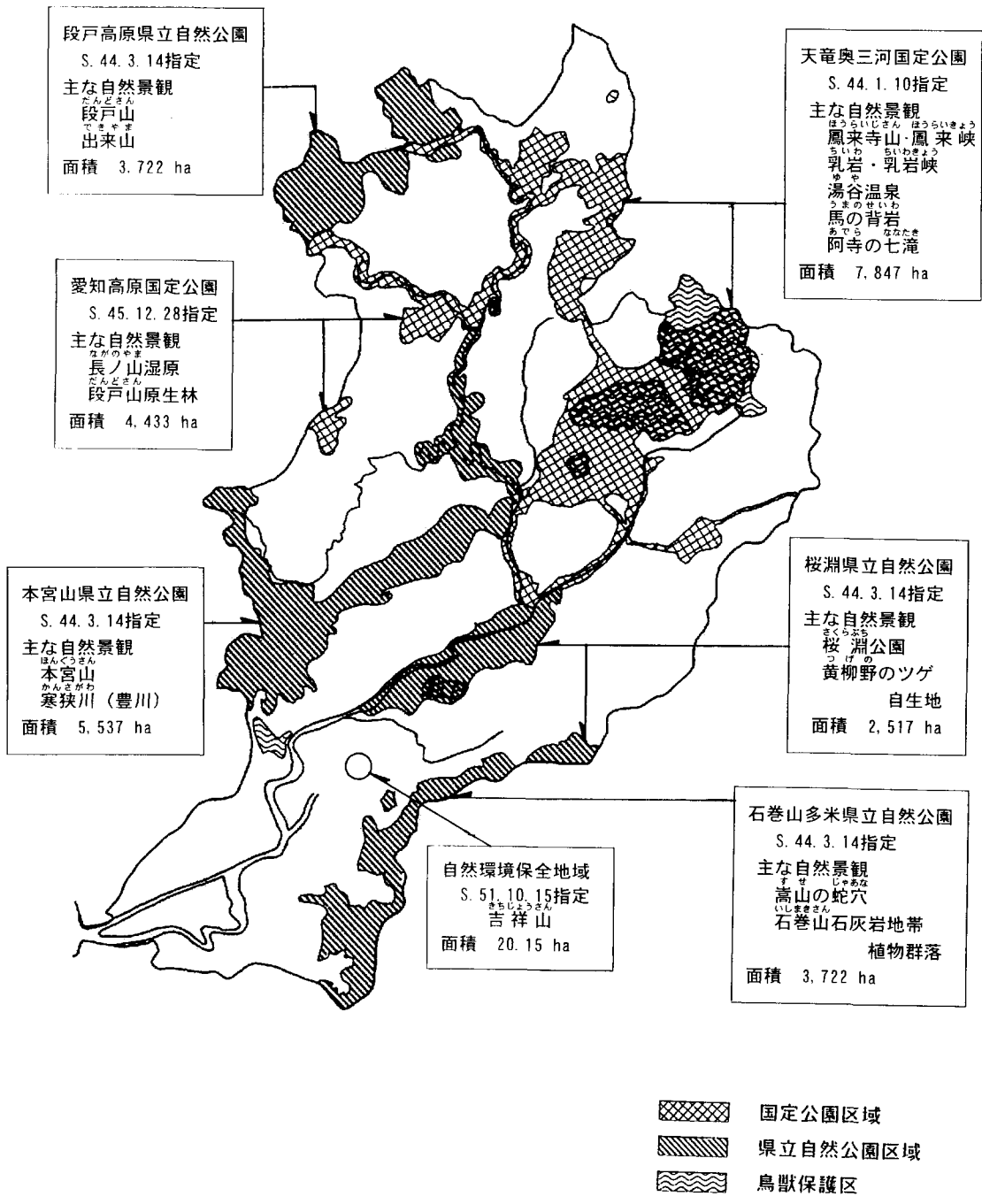


図 2 - 1 流域内国定公園・県立自然公園